

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	15-007	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Relationship Between Alcohol Consumption and Serum Lipid Profiles Among Middle-Aged Population in China: A Multiple-Center Cardiovascular Epidemiological Study. 中年中国人における、飲酒と血清脂質の関係：多施設間循環器疫学調査		
執筆者		
Hao G, Wang Z, Zhang L, Chen Z, Wang X, Guo M, Tian Y, Shao L, Zhu M		
掲載誌		
Angiology. 2015 Sep;66(8):753-8. doi: 10.1177/0003319714549557.		
キーワード		PMID
中国、アルコール、関連、血清脂質		25192699
要 旨		
目的： 中年中国人におけるアルコール摂取と血清脂質の関係を調べる。		
方法： 中国全域からクラスターサンプリングで集めた 10,154 名(男性 4,700 名、女性 5,454 名、35～64 歳)を調査対象とし、心血管疾患のリスクに対する断面調査を行った。		
結果： 調査対象の男性の 34.07%と女性の 3.61%が 1g/日以上飲酒習慣があった。アルコール大量摂取者(30g/日以上)は、高齢、喫煙、高血圧、高い身体活動性、低 BMI の傾向にあった。高等学校以上の学歴を有する男性は、少量～中等度アルコール(アルコール 1g～30g 未満/日)を摂取する傾向にあった。女性のアルコール摂取率は 3.61%と少なく、アルコール摂取と脂質の関係の評価は男性だけで行った。非飲酒者を基準としてアルコール大量摂取者を比べた多変量解析で、総コレステロールは 0.27mmol/L 増加、中性脂肪は 0.164mmol/L 増加、リポ蛋白(a)は 2.10mg/dL の減少を認めた。アルコール摂取量を連続値として解析すると、アルコール摂取が多くなるに従い、総コレステロール、HDL コレステロール、アポ A1 はそれぞれ上昇し、リポ蛋白(a)、アポ B/アポ A1 比はそれぞれ低下した。		
結論： 中等度までの飲酒は、HDL コレステロール値の上昇、アポ A1 値の上昇、リポ蛋白(a)の減少といった益が得られる一方、アルコールの大量摂取は中性脂肪や、総コレステロールの上昇といった害をもたらす。アルコール摂取による未知の害があるかもしれず、非飲酒者に飲酒を勧めるわけではない。		